

東野ふれあい音楽広報

ひがしの

200号
12月1日号

誕生100年記念
第4話
保古の湖用水物語

東野の人口 1643人 男:838人 女:805人 685世帯(R7.11.1現在)

4月1日との比較 総人口:+12人 男:+4人 女:+8人 +12世帯

令和7年4月1日～令和7年10月31日の東野の出生数 男:1人 女:1人 (恵那市全体 112名)



「東野ふれあい文化祭」が開催されました
東野文化祭実行委員会では、10月30日からの作品展示を始まりとして「ふれあい音楽祭」、歌舞伎公演など開催し、多くの人々に来場いただきました。

児童・中学生も参加した作展

10月30月から11月3日まで東野文化祭作品展を開催しました。

一般の出展者のはか、乳幼児学級に参加されている子どもさんから子ども園の園児、小学校・中学校の生徒さんなど181人の方に参展していただきました。



写真、絵画、生け花、つるし飾り、クラフト小物、フラワー・アレンジメント、竹細工、木工品など、日頃地域の皆さん方が丹精込めて作られた作品を見ることができました。延べ400人以上の方にご来場いただき、皆さん素晴らしい出来栄えに感心されていました。

第一部、三部ではプロミュージシャンで情熱的に歌い上げる素晴らしい声のケン・バルディスさんを中心とし世界的なヴァイオリニストの高橋誠さん、アコデイオン・ピアノ奏者のティート・モンテさんを迎える情熱的でロマンを感じるステージを鑑賞しました。

三部ではヴァイオリンの体験コーナーがあつたり、アンコールでは「見上げてごらん夜の星を」を会場全体で合唱するなど観客と演奏者が一体となつたステージになりました。

第二部では東野小学校の全校合唱と恵那東中学校吹奏楽クラブの演奏を楽しみました。

東野小学校の全校合唱では、子どもたちが心を一つにして、地域への感謝の思いを歌声にのせて届けてくれました。聴いている私たちも自然と笑顔になり、温かい気持ちに包まれました。

第三部では、東野小学校の全校合唱と恵那東中学校吹奏楽クラブの演奏を楽しみました。

同じ時刻にロビーでは珈琲と抹茶の販売があり、ピアノの優しい音色を聞きながらゆっくり味わっていた



東野ふれあい音楽祭

11月1日、27回目の「東野ふれあい音楽祭」を開催しました。

一部、三部ではプロミュージシャンで情熱的に歌い上げる素晴らしい声のケン・バルディスさんを中心とし世界的なヴァイオリニストの高橋誠さん、アコデイオン・ピアノ奏者のティート・モンテさんを迎える情熱的でロマンを感じるステージを鑑賞しました。

三部では、姉と妹、母と子の3組・6人の方に申し込みをしていただきました。

参加者が少なかつたので残念でしたが、当時は一人で演奏したり、二人で演奏するなど、それぞれピアノ演奏を楽しんでみました。



珈琲・抹茶と「ミセン・ピアノ

11月2日に初めての試みとして「コミセン・ピアノ」を開催しました。コミセンピアノは、子どもから高齢者まで誰でも自由にピアノを演奏できるというものです。今回は、事前に予約を受け付けさせていただき、おばあさんとお孫さん、姉と妹、母と子の3組・6人の方に申し込みをしていただきました。



恵那東中学校吹奏楽クラブは、地域の方々への感謝の気持ちと元気と笑顔を届けられるよう気持ちを込めて演奏してくれました。小

学生の皆さんも先輩の姿を見て音楽の素晴らしさを改めて感じじる時間となつたと感じました。

来場者は、500人を超え、会場全体が熱気に包まれました。



東野ふれあいきいきサロンの紹介

今回も東野で活動する「ふれあいいきいきサロン」を紹介します。恵那市社会福祉協議会東野支部ではサロン活動の広がりを推進しています。

ふれあい弁当



この配食活動は、ボランティアの皆さんを中心に行われており、郷土料理や地域の食材を取り入れた、季節を感じられる手作りのお弁当を作っています。

10月7日(火)、東野振興事務所にて、「まめなかな交流会」を開催しました。

この交流会は、東野地区の民生委員の皆さんが見守りをしている一人暮らし高齢者を対象に、年に一度行われているもので、今回で3回目の開催になります。ダンス後には、地域の皆様から園児たちへプレゼントが贈られる場面もあり、心温まる交流となりました。

まめなかな交流会

「一人ではなかなか料理を作る気になれないけど、みんなで料理ができると楽しい」「みんなと一緒に月とても待ち遠しい」等の声をいただきました。

地域のつながりを感じられる、温かい時間が流れる素敵なかいでした。



東野ミニエイセンターにて毎月第3金曜日に活動をされている「ふれあい弁当」さんでは、毎月、65歳以上の一人暮らしの方や、80歳以上の高齢な方が居る世帯などを対象に見守りを兼ねたお弁当の配達を行っています。

東野ミニミニティセンターで毎月第一金曜日に活動をされている「アヤメ会」さんでは、一人暮らし高齢者の方々が集まり、みんなで料理をしたり、おしゃべりを楽しんだりできる場として活動をされています。

当日は、参加者の皆さんのが昼食を囲みながら和やかにおしゃべりを楽しみ、笑顔あふれるひとときを過ごしました。また、東野学童の子ども達からは手作りのラン

アヤメ会

交流会の最後には、東野ごども園の年長児8名による元気いっぱいのリズムダンスが披露され、会場は大きな拍手と笑顔に包まれました。



東野 こども園児が入退場門の花づくりを担当！

10月26日(日)に予定されていた「ふれあいスポーツフェスティバル」のために東野こども園の園児たちが、当 日使う入退場門を彩る花づくりをしてくれました。

残念ながら、楽しみにしていた
フェスティバルは中止となりました
が、子どもたちは開催を心待ち
にしながら、古くなついた花
を新しいものに作り替えてくれ

各2色で丁寧に仕上げられた花は、フェスティバル会場を華やかに彩り、参加者の心を温かくしてくれそうです。園児のみなさん、ありがとうございました！



保古の湖誕生一〇〇記念

保古の湖用水物語

第四話 工夫と特徴

保古の湖用水に関連する工事は大きく三つありました。

その一つは、保古の湖を造るためのえん堤の工事です。二つ目は、田に水を通すための用水路の工事、三つ目は、荒れ地を田にする開墾の工事です。

ここでは工事の特徴的な出来事を紹介します。

【えん堤の工事】

・はがね えん堤の中心部にあり水漏れを避けえん堤の崩壊を防ぐ

層がはがね（コア）です。

はがねに使う土は良質な赤土で、その日に取った分は、その日にたたき終わるようにしました。たたき固めは女性の持つ木づちを打ち付けて行いました。

木づちを持つた女性が、えん堤の下部では八九名、上部の狭く



なつたところでは、四、五名が合い向かいの一列に並び、高台の上に立つた歌い手の唄にあわせてたたきました。

歌い手は卵をすすりながら歌いました。

合いの手は、槌をもつた者の声ですが、「ええやこら」とか「えんやこら」とか「えんこらせ」とかいろいろありました。

したがリズムよくゆっくりと一斉にたたき進んでいました。

【用水路の工事】

・水路橋

保古の湖用水の水路は急な山麓

を横切るため、数多くの洞や小川を渡ることになります。渡る方法は、水路橋をかけるか、サイフォンを使うかです。サイフォンとは地下を土管でくぐり、対岸に出す方法です。

多くの洞は水路橋で水を通しましたが、4ヶ所は、サイフォンを使いました。しかし、水圧が低いせいもあって、土管がつまりうまくいかず、すべて水路橋になりました。

保古の湖用水の水路橋はどれ一つとっても同じものではなく、一つ一つが特徴的な構造で価値あるもので

す。



・用水路の断面 工事中に用水路の断面の箱型が問題になりました。

「箱型は水路の両壁が垂直になっているが、底部より上部を広くして開いた形の方が丈夫ではなかろうか」という人が多くいましたが、県の設計では、「箱型でも内部の水圧で崩れることはない」と言い、箱型で施工しました。

しかし、この用水路は灌漑用水なので、必要な時だけの通水で、農閑期は水を通さず空溝となっていました。一二、三年してくると壁が内側に傾き始めました。木杭を内部にわたして補強しなければならない結果となりました。

文 三宅勝義

参考文献 保古用水沿革史



特徴的な工事が多いな。

東野から仕事場まで一時間以上もかかり、朝暗いうちに家を出て坂道を登つていった。

家につく頃は暗くなっていた。今のように機械がないからトロッコやモッコで赤土を運び、水をまいて木づちで叩いて、つつの堤防やそこを固めたものだ。

仕事をする人は、東野や阿木の人で、女性の人も50人位いた。工事の材料を運び上げるには、馬を使った。（当時工事に関わった人の話）

